

令和元年度入学式式辞（4月8日）

春爛漫の今日の佳き日に、本校の入学式を挙げるにあたり、PTA会長・三浦孝仁様、保護者の皆様の御臨席を賜りましたことを、高いところからではございますが、厚くお礼申し上げます。

ただいま、360名の皆さんに入学を許可いたしました。令和という新しい時代が始まる年に本校生徒となった新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。教職員をはじめ、皆さんの先輩となるすべての在校生が、皆さんの晴れの入学を祝福し、心から歓迎いたします。

皆さんは自らの意思で本校を志願し、本日、めでたく岡山県立岡山朝日高等学校の生徒となりました。今、その喜びをしっかりと噛み締めていることと思います。

本校は、岡山藩主池田光政公が創設した藩校の流れをくみ、1874（明治7）年6月、岡山城西ノ丸跡、現在の岡山市民会館のあたりに、教員養成の目的で温知学校が開校され、8月には「予科」として教員志望ではない生徒も受け入れることになりました。本県における中等教育の黎明となったこの年をもって、創立の年としており、今年が創立145年目となります。

この間、幾多の変遷を経て、岡山県立岡山朝日高等学校となり、昭和28年には、旧制第六高等学校の跡地に立地し、美しい自然空間と知的教養を志向する精神空間を引き継ぎ現在に至る本校の姿が整いました。

この本校に入学するに当たり、皆さんに三つのことを望みます。

一つは、本校の教育方針である、「自主自律」と「自重互敬」の精神をもち、社会に貢献する人間になって欲しいということです。「自主自律」とは、なすべきことを自ら考え、自らを厳しく律し、それに基づく自由を尊重する態度を育成することです。「自重互敬」とは、自らを大切にし、教養を高め、品位を保って、他人を敬愛することのできる人間になることの大切さを説いたものです。これらの精神は、高い志をもつことによってより一層磨かれ、高まっていきます。

朝日は昇らなくてはなりません。そして、その輝きは一人ひとり異なりつつも、自分の将来とともに社会の将来にも責任を持とうとする高い志をもつべきです。このことが、朝日の伝統なのです。

次に、大きな目的に近づくための目標を立てることです。本校の校章は桜です。大きな葉が1年生、そこから勢いよく伸びる蕾が2年生、そして3年生で花が開きます。このように段階的に自分が何をどこまでどのように達成すべきなのかを、一人ひとりが自分で、わかり易く掲げるのです。このとき大切なことは、常識で考えたらまともとは思えないくらいの高い目標にすることです。今までの延長線上の発想から自分自身を開放するのです。

最後に、目的に近づき、目標を達成するための行動姿勢として、①型にはまらない②ひとまずやってみる③失敗して前進する、を繰り返してください。この繰り返しによって、やればできるというマインドセットを身に着けるのです。この力は、努力や経験によって筋力のように鍛えることができますと言われています。

これからの3年間には、自由であるがゆえに、楽しいこと、嬉しいことがあると思います。しかし、むしろ自由であるがゆえに、厳しい覚悟と不断の努力が必要であり、結果についても自らに責任を課すことが求められます。その様な時、大学の向こう側を意識した「高い志」があれば、耐えることができます。頑張ることができます。是非、自分を磨き、蓄えた力や価値を仲間と互いに持ち寄って共に高めあい人間として大きく成長して欲しいと願っています。

さて、御臨席の保護者の皆様、お子様の御入学、心からお祝い申し上げます。本日より、お子様を本校でお預かりいたしました上は、すべての教職員が心を一つにして、自由であるが故の厳しさとともに、思いやりのある行動や温かく受容的な学校風土の形成を大切にしつつ、お子様方一人ひとりの成長、進路の達成、自己実現に向けて、誠心誠意、最大限の努力を払ってまいり所存です。保護者の皆様には、社会に出てからお子様が一人で様々なことに対処できるよう、しっかりと見守っていただきますとともに、本校の教育に対しまして御支援・御協力をいただきますようお願い申し上げます、式辞といたします。

(県立岡山朝日高等学校 校長 竹田義宣)